第1章「FinTechとは」

＜１＞ FinTechがなぜ注目されているのか

FinTech(フィンテック)とは、金融を意味する「Finance(ファイナンス)」と技術を意味する「Technology(テクノロジー)」を組み合わせた造語である。実際、FinTechという言葉自体は2000年代前半から存在しており、その時代のFinTechはインターネットにチャネルを展開していったものであった(“Old” FinTech)。一方、PayPalやSquareなどの金融サービスのスタートアップが注目された2013年頃から、これらのスタートアップが”FinTech”企業と呼ばれるようになり、新たな意味が生じた(“New” FinTech)。なお、日本では2015年の春頃から注目され始めた言葉である。以上のことからもわかるように、「FinTech」の正式な定義は存在しないが、金融庁の下に設置されている金融行政の様々な課題を検討する金融審議会の「決済業務等の高度化に関するワーキング・グループ」が2015年12月に公表した報告書には以下のように記されている。

「主に、ITを活用した革新的な金融サービス事業を指す。特に近年は海外を中心に、ITベンチャー企業が、IT技術を生かして、伝統的な銀行等が提供していない金融サービスを提供する動きが活発化している。」

現在のFinTechは「FinTechスタートアップによる新規技術の適用」のステージに立っているとされ、その先には「API(\*1)エコシステム」の台頭が予想される。そしてFinTechの最終段階として、アンバンドリングされた金融サービスは、標準API + IoTによって再統合されたリバンドリングモデルがあるとされる。（図１）

（図１）FinTechの発展ロードマップ仮説

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | FinTech1.0 | FinTech2.0 | FinTech3.0 | FinTech4.0 |
| キー  コンセプト | ITによる  効率化 | 金融ビジネスのアンバドリング | API  エコシステム | リバンドリング |
| キー  プレーヤー | 既存金融機関ITベンダー | FinTech  スタートアップ | 大手および  スタートアップ | 非金融機関を含む多様なプレーヤー |
| 概要 | 既存の金融機関サービスをITで効率化 | 他の領域の新規技術を金融領域に適用し、アンバンドリングを目指す | アンバンドリングされた金融プロセスの標準API化が進み、サービス革新が起きる | アンバンドリングされた金融サービスが再統合 |
| キー  テクノロジー |  | スマートデバイス  クラウド  ライフログ | API  AI(人工知能)  ブロックチェーン | IoT |

＜２＞主要なFinTechサービス

主要なFinTechサービスは①顧客サービス・投資アドバイス・ライフプランニング②資金調達③決済・インフラ領域に大別される。

1. 顧客サービス・投資アドバイス・ライフプランニング分野においては、PMF(\*2)・ロボアドバイザーが対個人向けのサービスとして拡充している。現在のPFMはクラウド上にサービス基盤を持ち、多様な金融機関との関連が可能となっているため、FinTech領域のオープンイノベーションのハブ的存在としてプレゼンスが増大している。2017年3月3日に閣議決定された銀行法改正において、これらPFM事業者などを「登録制」とすることで、法的位置付けを明確化する方針が打ち出された。合わせて、銀行に対して「APIの解放の努力義務」が課されることとなっている。
2. 資金調達分野においては、クラウドファンディングが挙げられる。クラウドファンディングの４類型をあげるか否か。。。。。。。。。。